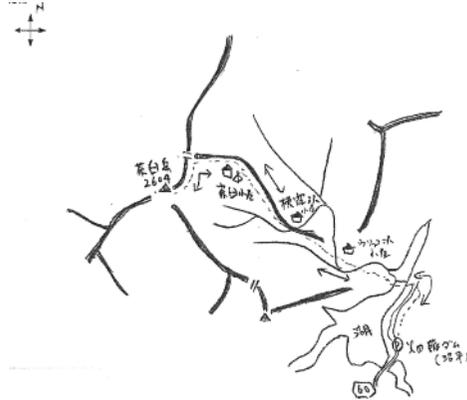


# 茶臼岳

初めての単独雪山泊

2021年1月30～31日

L: 齋藤



## アクセス

R1、R473、R362、県道 60 経由で畑薙ダムへ。沼平のゲート手前に登山者用の駐車場あり。トイレなし。

## 1月30日(土)晴れ

もし日帰りの雪山山行で何らかの理由によりビバークすることになったら。一人でもちゃんと雪洞掘れるかな。スノーマウントやイグルーを作れるかな。の練習のため、テントを持たずに雪山泊という選択を試してみた。本当は鈴鹿山脈のように雪が豊富で、かつ標高が低いところで実践したかったのだが、静岡県知事より県外への移動自粛要請が発令されていたので、南アにターゲットを絞った。今冬は南岸低気圧が2回ほど太平洋沿岸を通過したが、山には雪を積もらせてく

れたのだろうか。あまりにも雪が無いとスノーマウントさえも作れなくてただ寒いだけの夜になってしまうな、と心配しながら沼平のゲートを越えた。



広々とした駐車場に1台だけ・・・

畑薙湖沿いに歩き、畑薙大吊橋を渡ると山に入っていく。湖に沿って斜面をトラバースしていくが足元がザレっていて緊張する。吊り橋もいくつか越えるが床板

が抜けそうでちょっぴり怖い。



**枕木(と言う?)が折れそう**

とはいえ歩みは順調で、ウソッコ沢小屋を越え、横窪沢小屋まで到着。



**立派な横窪沢小屋**



**中もめっちゃきれい**

ここからさらに茶臼小屋まで目指したが、斜度がきついトラバースがどうして

も渡れない。下方には樹木が無いので滑ったらそれなりに下まで落ちていきそう。少し戻って尾根から巻こうとしたがこちらも傾斜がきつくて登れなかった。実力不足だ。時間は13時を過ぎている。まだ1900m付近なので小屋まであと1.5kmくらいある。このままずっと膝下ラッセルでは到着も遅くなるし、体力もかなり消耗しそう。弱気な自分は「今回の目的はスノーマウントだっ」と前向きに割り切り、往路はここで終了することにした。



**今回の終了点**

初めての単独雪山泊なので、念のため横窪沢小屋まで戻ることにした。小屋まで下るとちょうど二人組の登山者と出会った。実力不足で上まで行けなかったこと、今から小屋付近で雪遊びをする旨を伝え、かたきを取ってきますとばかりに登って行った。

さて、自分は今からスノーマウント作りだ。見るからに雪が薄いけれど作れるかな。



まずは平らな所にザックを置いて



ツェルトなどをかぶせて



雪を盛りましょう

積雪深は10~30cmほど。浅いなあ。そこから中から雪をかき集めなきゃならない。中度の腰痛持ちの自分は、腰だけは傷めないよう膝をついてスコップで雪を集めていたが、慣れない姿勢のせいか両もも

を2回ずつつった。ほぼ新雪で雪が全く締まっていないので、雪を盛りながらスコップでバンバン叩いた。所要時間約30分。やっと、なんとか人ひとりくらいが入れるであろう雪山ができた。次はこの雪山からシートとザックを取り出す。



ずるずる。また足をつった。

ザックを取り出したら、人が入れるよう、さらに穴を掘っていく。穴掘り作業は約30分。やっと寝られるサイズのスノーマウントが完成した。所要時間計60分。



スノーマウント01号

作ったあとの感想。①積雪深があれば、雪を盛った後、下から掘っていけるのでもっと短時間で作成できるはず②スノーマウントの雪壁は15cmくらいあると安

心できそう③新雪 20cm 程度の積雪深でもスノーマウントが作成できる。今回は③の成果が経験値として大きい。

さて、このスノーマウント。一応、寝ることはできるだろうが、高さが無いのでザックは外ということになる。また食事を作るスペースがないので、野外で作る？ムリムリ。小屋で？負けた感ハンパ無い。しばらく考えたが、スノーマウントの中はきっと暖かいであろう。寝袋は持ってきているので、せっかくだからツェルト泊で寒さを体験しよう。とツェルトを張る準備を始めた。

と、そこに先ほどのパーティが下ってきた。聞くと自分と同じトラバースが越えられず下りてきたとのこと。彼らは小屋の中にテントを張ると言ったので「私はツェルトで寝るつもりですが、寒かったら小屋に行きますね」と伝えると「今夜はそこまで寒くないでしょう。大丈夫。寝袋もあるんでしょ」と想定外のコメントでマウントを取ってきた。暖かい所で寝る人にそんなん言われる筋合いないわ。と思うと共に、今晚の小屋泊は選択肢として消えたかと確信した。さあ、ツェルトの準備。ちょうど張った場所が悪く、雪が 5cm 程度しかなかったので、一部、竹ペグに石を載せてツェルトを張った。



**薄暗くなってきちゃった**

雪山装備を持つてのツェルトの中は狭い。荷物がぐちゃぐちゃ。天井も低いので結局、食事は作りにくい・・・



**きったねー**

### 1月31日(日)晴れ

夜中、遠くからゴウゴウと風が近づいてきて、ツェルト飛ぶか？と思うことが数回あったが、案外大丈夫だった。2時過ぎからは寒さを感じてあまり良く眠れなかった。薄手のダウンパンツは履いたけれど、上半身は登山するときの服装のままだったので、もう1枚着てもよかったかもしれない。朝、ガスを入れてお茶漬けを作った時点で、ツェルト内は-5度。そこまで寒く感じなかったのも納得。

ツェルトを撤収し、小屋内テント泊のパーティをほったらかしで6時半過ぎに下山を始める。天気は今日も上々。昨日は緊張した畑薙湖近辺のトラバースも、この日は特に気にすることもなく通過。自分より後ろに人間がいるという心理的な安心感があるからかもしれない。そういえば、この山は、やたらと落石が多い。小石からこぶし半分くらいの石まで定期的にコロコロと落ちてくるので、避けられる反射神経と石のバウンドを予想する能力が必要。無いならばちゃんとヘルメットをかぶったほうが良いなと思う。

下山中、雪の上に真新しいストックのリング(雪輪)が落ちていた。登りでは気付かなかったし、今、山の中にいるのは自分とあのパーティだけなので多分彼らの物であろう。下山後、彼らの車両の近くにそっと置いておいた。



**帰りもやっぱり怖かった**

今回は寝袋・マット持参だったのでツェルト泊でも寒さに対する問題は無かったが、日帰り装備でのツェルト泊はかなり寒さを感じるものと思う。一方、スノ

ーマウントやイグルーは風を防ぐことができるうえ、その内部は0度付近であろうから、寒さから身を守る手段として非常に有効だと思う。作成にはそれなりの時間がかかるが、荷物の軽量化やテント撤収の時間が不要というメリットもある。今後も繰り返しこれらを作成し、万が一に対応できる術を身に付けていこうと思う。

<タイム>

1月30日(土)

沼平 P(7:25)-ウソッコ沢小屋(9:45)-横窪沢小屋(11:40)-1900m 付近(13:15)-横窪沢小屋(14:00)

1月31日(日)

横窪沢小屋(6:35)-沼平 P(10:30)

(齋藤 記)